



プレスリリース

2026年3月17日

Asana、AI チームメイトの一般提供を開始 「エージェント型企業」 を構想から実証フェーズへ

AI チームメイト導入初期データが
業務の迅速化・責任の明確化・チーム横断の可視性向上を実証

エンタープライズワークマネジメントプラットフォームのリーディングカンパニー、米国 [Asana, Inc.](#) (以下、Asana) の日本法人・[アサナジャパン株式会社](#) (東京都千代田区) は、この度、チームを横断して業務を管理する新しいタイプのコラボレーティブ・エージェントである「[AI チームメイト](#)」の一般提供開始を発表しました。Asana は、アーリーアクセスプログラムを成功裏に完了し、組織全体における複雑なワークフローの管理を支援する 21 の専門領域に対応した AI チームメイト (事前に設計された AI 機能) の提供を開始します。

多くの企業が既存ツールに AI 機能を追加している一方、Asana は AI エージェント時代を見据えて開発されました。Asana 独自のデータモデル「Work Graph®」は、目標・タスク・依存関係をリアルタイムで結び付けることで、実際の業務進行状況を可視化します。AI チームメイトはこのプラットフォーム基盤上で直接稼働するため、業務が行われている背景やコンテキスト、さらには担当者や責任の所在までを理解することができます。これにより、単なる分断された提案にとどまらず、複数の AI エージェントがマルチプレイヤーモードで連携しながら、チーム横断で業務を推進し、具体的な成果の創出を支援します。

Asana CEO の Dan Rogers は次のように述べています。

「エージェント型企業の本質は、AI エージェントが人間のチームにとって有効なパートナーとなるために必要な、組織の豊富なコンテキストを提供することにあります。AI チームメイトのベータ版では、エージェントが業務の全体像を理解することで、単なるタスクの自動化にとどまらず、組織全体の業務遂行能力を加速させることを実証しました」



構想から実証へ：コンテキストを理解する AI がもたらすインパクト

初期導入データでは、AI が「個人向けのツール」から「組織の調整役」へと大きくシフトしていることが示されています。Asana の調査によると、AI 導入に関する意思決定者の 72%¹が、個人向け AI アシスタントよりも、複数のメンバーと連携する「マルチプレイヤー型」のエージェントを支持していることが明らかになりました。この需要は Asana の先行アクセスプログラムにも反映されており、200 社以上のお客様が導入し、パイロット期間中の AI チームメイト導入数は 1,046%増加しました。

Asana 最高製品責任者 の Arnab Bose は次のように述べています。

「Asana は、従来の AI が提供する 1 対 1 のツールの枠を超え、エンタープライズ企業が求めるレベルの業務運用スケールを実現します。初期導入の結果から、AI を Asana Work Graph®に統合することで、AI は単なるサポートツールにとどまらず、部門横断の成果創出を推進する存在へと進化することが示されています」

ビジネス価値の実証

AI エージェントによる業務推進の効果は、すでに数値として表れています。

- **2 倍の業務遂行スピード**：AI チームメイトを活用するチームは、手作業のワークフローで業務を進めるチームと比較して 2 倍速く業務を完了しています。
- **エンタープライズグレードの信頼性**：AI チームメイトの 93%にプロジェクトへの「編集」権限が付与されています。こうした高い信頼水準は、Asana の「Human-in-the-loop（人間による確認・介入）」のコントロール機能によって支えられており、管理者はアクティブな AI エージェントを安全かつ安心して導入・運用することができます。

「マルチプレイヤー型」のアカウントビリティへの移行

組織の規模が拡大するにつれ、企業は個々のプロンプトに依存する運用から、組織全体で責任を共有するアプローチへと移行しています。この複数のキーパーソンが連携するマルチプレイヤー型のアプローチは、複雑な組織において生じがちな業務実行上のギャップを解消するために設計されています。

- ┆ **部門間の統合**：AI チームメイトの 5 分の 1 は、異なるチーム間での共有リソースとして設定されており、IT サービスリクエストから長期的な戦略計画まで、あらゆる業務を管理しています。

¹ 米国、英国、オーストラリア、ドイツの AI 導入意思決定者を対象に Asana が実施した定量市場調査。



「**アカウントビリティ・ギャップの解消**」：マルチプレイヤー型の AI チームメイトが管理するタスクは、的確な担当者が割り当てられる確率が 3.2 倍、的確な期日が設定される確率が 2.6 倍高くなっています。

「**オペレーションの可視性向上**」：こうしたマルチプレイヤー型アプローチによる業務遂行には、より多くの関係者が関与し、透明性の高い形で業務が進められています。その結果、手動による運用やチームや個人で個々に利用される AI ワークフローと比較し、ステークホルダー（タスクフォロワー/タスクの視認性を持つメンバー）の数が 67%増加しています。

あらゆる職務に特化した設計：AI チームメイト

今回の一般提供開始にあたり、Asana は、ナレッジワーカーの業務時間の半分以上を占めるとされる「仕事のための仕事（work about work）」を担うために設計された、21 種類の専門 AI チームメイトを提供します。これらの AI エージェントを Asana Work Graph®に統合することで、企業はこれまで課題となっていた高次の目標と日々の業務実行との間に存在するギャップを解消することが可能になります。

以下は、事前提供される、各部門の職務に特化した専門 AI チームメイトの一例です：

マーケティング

- **キャンペーンブリーフ・ライター**：散在するメモから構造化されたブリーフを瞬時に作成し、チームが手作業でのセットアップに時間を取られるのを防ぎます。
- **コンテンツ・ローカライゼーション・マネージャー**：グローバルで一貫したブランドボイスを維持しながら、キャンペーンアセットを各地域の市場に最適化します。

戦略的オペレーション

- **ワークフロー最適化アシスタント**：業務パターンを分析し、収益へ影響が出る前にボトルネックを特定・解消することで、効率化を推進します。
- **意思決定トラッカー**：経営層の意思決定を検索可能な形で記録・管理し、チャットツールや会議メモの中に埋もれがちな「意思決定における遅延リスク」の発生を防ぎます。



IT&ガバナンス

- **コンプライアンススペシャリスト**：プロジェクト関連文書を SOC2 や ISO 基準とリアルタイムで照合することで、事後監査型のガバナンスから、常時機能するガードレール型の管理へと転換します。
- **ベンダー評価アシスタント**：ベンダーからの提案を社内のセキュリティ要件と照合・評価し、データに基づいた公正な購買判断を支援します。

部門横断リーダーシップ

- **リリースプランナー**：グローバルな製品ローンチに関わる部門間の依存関係を可視化し、リスクを事前に把握することで、組織全体をつなぐ役割を担います。
- **バグ調査アシスタント**：申告・報告される不具合を整理・分類し、再現性を特定することで、お客様への影響が生じる前に重要な問題の解決を支援します。

グローバル企業で採用が加速、コンテキストを理解する AI エージェント

すでに多くの先進的な企業が、重要な業務において AI チームメイトを活用しています。

KW Automotive 社 最高執行責任者 の Ingo Eisen 氏 は次のように述べています。

「当社のビジネスは、複雑で高度な専門知識に支えられています。そのため当社では、こうした組織内の知見が蓄積されている Asana 上で、AI を直接活用する戦略を採っています。AI チームメイトはその取り組みを大きく前進させるものであり、これまで数週間を要していた多言語での高度なサポートや専門的な調査業務を担う“デジタル・コリーグ（デジタル同僚）”の構築を可能にします。これは単なる自動化ではありません。組織のオペレーショナルデータを安全かつスケーラブルに活用し、重要なビジネスインサイトを生み出すとともに、人間の専門家がより付加価値の高い業務に集中できる環境を実現するものです」

Living Spaces 社 コンテンツ制作ディレクター の Matt Odom 氏 は次のように述べています。

「AI チームメイトの大きな強みの一つは、Asana 内に蓄積されたデータに直接アクセスできる点にあります。これにより、従来は把握が難しかったインサイトを導き出すなど、より高度な分析を行うことが可能になります。さらに大きな特長は、特別な設定や準備をほとんど必要としない点です。多くの AI ツールのように長く詳細なプロンプトを作成する必要はなく、AI チームメイト導入後すぐに効果的に活用することができます」



提供開始時期について

Asana の AI チームメイトは、本日（米国時間 2026 年 3 月 17 日）より企業顧客向けに提供を開始します。「マルチプレイヤー型」のコラボレーティブ・エージェントの導入を検討されている企業は、担当の営業チームを通じて AI チームメイトのご利用についてご確認いただけます。なお、一般向けセルフサービスの提供開始は 2026 年 7 月を予定しています。

Asana について

Asana は、人と AI の協働を可能にする「System of Action（業務遂行のためのシステム）」であり、個人がよりスマートに働き、チームがより速く動き、組織が確実に成果を出せるよう支援します。Asana 独自のデータモデル「Work Graph®」を基盤とし、AI がチーム、プロセス、システムを横断する実際のワークフロー内で機能するために必要なコンテキストとガバナンスを提供します。Accenture、Amazon、Anthropic、スズキをはじめとした 18 万社以上の顧客が、Asana とともに「エージェントック・エンタープライズ」を構築し、戦略と実行を結び付けながら、複雑な業務を大規模に遂行しています。詳細については、www.asana.com をご覧ください。

《本件に関するお問い合わせ先》

アサナジャパン株式会社 広報事務局

担当：神谷・水田

Tel: 03-5269-1038 Fax: 03-5269-1039

E-mail: asana@jspin.co.jp